

令和7年度 第6回一ノ宮小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和8年2月3日（火）19:00～20:00

2 場 所 第2職員室（会議室）

3 委員長あいさつ

- ・学校関係者評価に目を通し、一ノ宮小学校がよりよい教育ができるように意見交換をしましょう。情報交換では、一人一人が意見を出し合ってより良いものになるようにしましょう。

4 学校関係者評価について（別紙）

- ・聴き合いたくなる課題とはどのような課題か。  
→例えば  $3+5=8$  と教えるのではなく、8になる式を考えようという課題のこと。

5 情報交換

テーマ 「非認知能力の育成について」（別紙リーフレット使用）

- ・（リーフレット裏面）非認知能力はA～Dで評価していくのか。  
→評価はしない。教員の目安である。
- ・こどもも自分で評価するのか。  
→している部分もある。行事などではめざす姿を示している。
- ・非認知能力は学校だけで育成するのは難しい。家庭の中でつけていきたい力である。先生だけが担っていくのには疑問がある。
- ・中学校の定期テストでは順位が出る。何位以内に入ろうという目標をもつなど、ある程度の競争心は必要である。マラソン大会などで順位がないのは、いい面もあれば気になる面もある。  
→一ノ宮小でもマラソンは順位はつけず、5分間でどれだけ走れるようになったか、自分の距離をどれだけ伸ばせるかなどこどもに目的やこういうことを目指すと伝えて取り組んでいる。
- ・勉強が苦手でも好きなサッカーは夜まで頑張っている。好きなことがあるとやりぬく力が育つ。
- ・孫に「すごいなあ」と声をかけたら、「私の唯一の良いところは想像力なんだよ」と答えた姿をみて、先生に声をかけてもらって自信につながっていると感じた。誰かに言ってもらえると自己肯定感が育ち、自分のいいところと思って生きていける。
- ・非認知能力というと難しく感じるが、昔からあったもの。叱らずにほめていくことでやり抜く力が育っていく。
- ・子育て中は忙しいが、小さい時こそ手を止めてこどもの顔を見て「なあに？」と声をかけることが非認知能力の育成では大切。具体的に「手を止めてから聞くね」と答えるなどの積み重ねが大切である。

- 自治会に入りたくないという家庭があった。こども同士は遊びでつながっていくが、親同士はなかなかつなげない。こどもの姿を見るためにも入ってもらうといいと勧めたことがあった。
- 初めてのことで、やり方を変えたり工夫したりすると一生懸命取り組んで楽しくなる。好きになるきっかけとなる。
- 子育て中だがあまりほめていない。ほめることがプレッシャーにならないかと考え、認めるようにしている。
- 「がんばって」の言葉はあまりかけない。例えばピアノを弾いていたら「素敵な音だね」と声をかけている。
- 昔は遊びの中から、上の子たちから学ぶことがあった。今は遊んでいる姿を見かけない。学校だけに任せていいのか。
- 自分が小さいころ母親から「勉強しなさいと言ってほしい？言ってほしくない？」と聞かれた。ほっておかれるのも嫌だったので「適度に言ってほしい」と答えた。自分のこどもに同じことを聞いたら「言わないで」と言われた。こどもによって考え方が違うので意思を認めつつ見極めて親として対応していきたい。
- 登校中、1年の子が転んで泣いた時、大きい子がなだめていたので自分も声をかけたら、大きい子たちが自分に「ありがとうございます」と言ってくれた。社会性が育っていると感じた。
- 外国人のこどもたちを大切にしていかななくてはいけない。外国人の未就学児の子は友達がおらず、親とだけ遊んでいる姿があるので社会性を育てるためにも居場所作りが必要である。
- 前から疑問に思っていたが、小学校の教育では平均的なまろい人材を求めているのだろうか、それともとがった子（人とは違う秀でたものを持っている子）を求めているのだろうか。平均的な子が多いと、外部から見ると落ち着いたいい学校と見られると思うが、とがった子の中には日本を背負っていくような人材もいる。こどもの様子の一部を見ただけで評価するのは難しいと感じる。  
→どちらかを育てるのではなく、その子に応じて対応をしていきたい。そのためにはマンパワーが必要である。
- 秀でた部分を出さないほうがいいと感じている子もいる。認め合う雰囲気ができることを期待する。
- 友達からの誘いで、新しいことに挑戦する姿がある。友達は大切である。

## 6 今後の予定（事項書）

## 7 教育委員会より（本日欠席）